

すが、手渡されたマップはこれを更に刷新したもの。対応してくれた事務員は「このマップはうちが作った私設コースのもので、公認コースのものではないんです」といい、PCマップ自体はもう扱っていないとのことでした。新マップには、スコアOL用に数多くのポストが記されています。しかし幸いしたのは、ここに記された48～56番までのポストが公認コースのもので、ポストも、他が平板製に対し、PC用はしっかりと三角錐で作られています。

30年ほど前に開設された初期のコースは、スタート直後に「烏帽子岳」に登り、その後北麓を巡っていました。マップの改訂は79年と90年。2度目の改訂は、コース変更に伴ってなされたものと思われる。現在のコースは「青少年の天地」のある南麓が主体となっています。

公認コースにトライ

スタートするとスコア用のポストが散見されます。大きな池の前を過ぎ、道路が北に大きくカーブした先で林に分け入ります。道路と並行した道との分岐で早速第1ポストを発見。やや小型ながらも立派なポストに、整備の良さが伺えます。

ここからは気持ちのいい自然散策路。植林地内に続く小道の分岐を丁寧に拾いながら歩いて行くと、広い道路に出る直前で第2ポストに出会います。

このまま北に向かうと、新地図で初めて登場する「えぼし岳高原リゾートスポーツの里」に到達。かつての第7、第8ポストを飲み込む形で整備されたこの施設は、オールシーズン楽しめる人工芝スキー場やミニゴルフ場などがあり、ファミリーの人気スポットになっています。第3ポストは、この西側にある小高い丘の上に置かれています。

ここからいよいよ「烏帽子岳」へ。標高568mとは言っても、もともと高いところから歩き始めているので、アップは至って緩やかです。丘を下り、道路を経由して遊歩道に入ります。林を抜けると視界が開け「風と星の広場」に到達。晴天であれば、ピクニックには打って付けのところ。第4ポストは、広場の北西端にあるのですが、倒木でやや見えにくくなっています。

第5ポストが「烏帽子岳」山頂。第4ポストから北に向かうルートが藪で閉

ざされているため、一旦駐車場へと回り込みます。正規の登山道の入口があり、西へ石段が続いています。私が差し掛かったときは、風雨ともに強くなり、傘すらさせない状況でしたが、それでも行き交う人がちらほら。頂上にたどり着くと、遠景を望むことは叶わなかったものの、眼下の街や海、九十九島の眺望はほしいまま。艦船の停泊する、佐世保ならではの港の景色が見渡せます。ポストは山頂を少し過ぎたところにあり、見つけにくいかもしれません。

「烏帽子岳」登頂も、駐車場と山頂の往復で済ませてしまう人がほとんどのようで、さらに西へ下るルートは至ってひっそりとしています。テラスにある分岐から続けて西進すると、雰囲気満点の森が迎えてくれるでしょう。途中、旧第3ポストの支柱を発見。こういう遺構に敏感に反応してしまうのは、PC病のなせる技…。このポストがまだ現役だった頃に思いを馳せながら先に進むと、第6ポストは分岐にたずんでいました。

この先、ほどなく広い鞍部に到達します。第7ポストへ下る小径は、この鞍部から北に延びているのですが、林と同化したルートの入口を一発で見極めるのは相当困難です。そろそろあるかな、などと思っているうちに通り過ぎ、上り坂に差し掛かってはじめて見過ごしたことに気づくでしょう。てこずりながらも何とか入口を見出し、獣道然とした小径を下ると、第7ポストに導いてくれます。ポストは土台から引き抜かれ、斜面に横たわっていました。

第8ポストはこのコースの最難関。ぐるりと山裾を巡ってたどり着いたスコア用44番ポスト。ここからわずかの区間は小径を経由することになるのですが、これが分かりにくいのです。見当をつけて斜面に取り付いたものの、等高線に沿ったルートに乗ることができず、結局上り過ぎてアンテナのある地点に到達。道路を引き返して分岐のポストを発見しました。

ヘアピンカーブから続くルートが最後の山道。緩やかな上り坂を進み、沢を越えて南に向かうと、分岐に最終ポストは立っています。「青少年の天地」の裏側に通じる道を歩いていると、至るところにポスト、ポスト…。この私設コースの存在があればこそ、公認コースも生かされているのだということを実感します。

九州でPCさんまい

所要2時間33分。PCだけでも程よいハイキングコースですが、スコア用に全51のポストが設置されています。グループで得点を競ったり、自在に組み合わせて、オリジナルコースを作ったり、楽しみ方は様々です。

この日の夕方には佐賀県「川上」コースも歩き、1日だけで3コース完歩を達成。翌日から、熊本、鹿児島、宮崎、大分と巡り、全13コース、車の総走行距離4,300km、地球の直径の3分の1にも及ぶ旅となりました。

(2004年5月2日踏破)
(大高竜亮)